

強者の戦略

【解答例】

高度経済成長を可能とした条件として、戦後の経済民主化と日本型雇用形態などが挙げられる。過度経済力集中排除法や独占禁止法の制定による財閥解体は競争的市場を作り出し、各企業は欧米諸国から競って先進技術を導入しようとした。こうして技術革新が進み、そのための設備投資の拡大が成長をリードした。また、農地改革や労働組合の助長は国民の購買力を高め、耐久消費財等の国内市場の拡大をもたらし、積極的な投資を導いた。旺盛な投資を支えたのが高い貯蓄率と政府の財政投融资、産業基盤整備、税制等の産業保護政策である。さらに教育水準も高く安価な若年労働力が、農村から都市に大量に供給された。彼らは終身雇用制や年功序列型賃金などの日本型雇用システムの下で企業への強い帰属意識を持ち、きわめて勤勉であったことも条件となった。(347字)

【解説】

まずは問題の設定条件を考えてみましょう。時間軸では「1955年頃から」という表記があるので、1955年以前の政策や状況を考えてみましょう。終戦後、10年の間のいわゆる「民主化政策」が出てくると思います。うち、今回の問題のテーマは経済に絞りますので、「経済の民主化」を取り上げた上で、その影響が1955年頃以降、どのように見られたのかということを考えるところから入っていきましょう。取り上げるべき項目は以下3点になります。

1. 財閥解体（過度経済力集中排除法・独占禁止法）
2. 農地改革（改正農地調整法・自作農創設特別措置法）
3. 労働組合の助長（労働組合法・労働関係調整法・労働基準法の労働三法）

1. 財閥が解体されればどのような影響がみられるか、を考えてみますと、これまで市場を独占していた財閥がなくなり、新規産業の参入や自由競争経済がみられるようになる、と想像がつくと思います。

2. 農地改革による影響としては人口の大半を占めていた小作農が自作農へと成長を遂げ、収入の安定から購買意欲が向上するということを考えることができると思います。

3. 労働組合の助長は2.と同じく賃金労働者の安定収入から、消費・購買意欲が向上することを考えることができると思います。

こうしたところから、生産側＝企業は、設備投資（生産レーンの拡張）を行い、三種の神器（白黒テレビ・冷蔵庫・洗濯機）や新三種の神器（カラーテレビ・自動車・クーラー）といった耐久消費財をはじめとする製品の増産ならびに国内市場の拡大がもたらされたことを理解することができることでしょう。

次に日本型雇用システムを考えてみましょう。取り上げるべき項目は以下2点になります。

1. 終身雇用制（転職がない・離職率が低い）
2. 年功序列型賃金（職能ではない月給制）

近年では職務給や職能給の導入など状況は様変わりはしましたが、1955年頃から1970年代初頭にかけては学歴別に決まった初任給を基礎に、勤続年数や年齢によって賃金が上がってゆく仕組みである年功序列型賃金が終身雇用制に対応した日本型経営の特色であり、労働者は企業に対する強い帰属意識を持っていたことから、きわめて勤勉であったことも高度経済成長を支えた条件になったと考えられます。

他に考えるべき項目としては、政府側の対応です。政策としてどのようなことが行われたのかも「条件」としては必要になってきます。取り上げるべき項目は以下3点になります。

強者の戦略

1. 財政投融资と産業基盤整備
2. 産業保護政策

1. は重点産業の発展と輸出の振興のための資金を提供した他、治山・治水・道路・港湾などの公共事業建設に向けられたことが挙げられます。

2. は国民の租税負担を軽減し、また企業の租税負担をも軽減した税制上のものや、保護貿易政策が挙げられます。保護貿易では輸入規制されていた外国商品の種類は1970年代に入ってもなお約100種の品目が規制を撤廃されずに残っていたことから、いかに政府が力を入れていたかということがわかります。

他に、教育水準が高かったということも考えてみましょう。1955～70年の間に、高校まで進学した者は約2倍、短期大学まで進学した者は約4倍、四年制大学まで進学した者も約2.5倍へと増加していて、その教育水準は資本主義諸国のうちではアメリカに次いで第2位を占めているので、こうした内容にも言及してみるのもよいでしょう。

最後に、今回の問題は経済分野の内容でありながら、政治的な要素、また日本史的な要素を盛り込んだ上で述べるようにすることが求められているということを見極めていただきたく思います。そして「1955年頃から」という条件を、その年度から考え始めるのではなく、1955年の経済（政治）状況が整ったその元をさらにたどっていき、戦後におけるアメリカの民主化政策を起点として、順を追って述べてゆくと論点を割り出しやすくなるということにも気づいていただきたいと思います。こうした見極め・気づきをもとに学習を進めていってください。